

神社の杜(十八)

御岳ビジターセンター 片柳 茂生

『お印を見に行こう』

昨年(2019年)の十二月一日、国民にとっても喜ばしいニュースが飛び込んで参りました。そうです、皇太子御夫妻に内親王が御誕生になったのです。御名を愛子と命ぜられ、御称号は敬宮(としのみや)とされました。お印はゴウツツジでしたね。

さて、お印のゴウツツジですが、あまり聞き慣れている植物では有りませんよ。でもシロヤシオと言いつつ、換えたらご存じの方も多いでしょう。ツツジ科の落葉中低木で、初夏には真っ白な花で木を包み込みます。



御岳山にもこのゴウツツジの立派な木が生えています。場所は奥ノ院の中腹。尾根道からヒヤヒヤドキドキの岩場を通り過ぎると見晴らしの良いテラスに出ます。そこにいたら周りを見てください、

頭の上を覆うように白い花が咲いているのですぐにはわかんと思いますが、山頂だけを目指してただ黙々と歩いていただけでは見つけることはできませんよ。うっかり見逃してしまつた方ご安心下さい、山頂の周辺にも有ります。前の木ほど立派ではありませんが、それがそれでもご満足いただけると思います。

開花の時期は五月の中旬、奥ノ院の御祭礼(五月十五日)の頃が見頃になっています。ただし毎年見事に咲くと言わねばいけません。前年の気候など色々

条件は有るのでしようが、どうも一年おきに花付きが良い年が巡って来るようです。せっかく見に来たのにみどりの葉の中にちらほらとしか咲いていない年だつて有るんです。今年はどうでしょうか?

モリアオガエル



イラスト 神田忠良

モリアオガエルは青緑色の身体に赤褐色が多くあり、一見アマガエルに似ていますが、手足には吸盤がついていて木の上で生活します。身体の色は保護色になっていて、葉の上では青緑色、枝にいると黒褐色に変化し、鳥などから身を守っています。六月上旬、山上の池や井戸に垂れ下がる枝の葉に、白い泡の塊を見つけてることができますが、この中にモリアオガエルの卵があります。

昨年は花付きが良くなかつたので今年は見事に咲く年と、私たちは予想しているんですが、奥ノ院までとはとても行けないとい

う方は、天狗岩の上にも数本有ります。そこまでも行けないという方にはしょうがない。何軒かの御師の家の庭にも植えられていますので、それを鑑賞する事で我慢していただきましょう。

決まって今にも降りだしそうな空模様の時、一匹の雌の背に、我先にと五、六匹の雄が群がり、グアックグアックとうるさく鳴きます。そうして産み付けられた泡の中の黄色い卵は、約二週間をかえり、さらに雨が降ると表面の固く乾いた泡が破れ、オタマジャクンが水の中に落ちていきます。梅雨入り頃のみたけでは、こんな光景にも出会えるかもしれません。

片柳 至弘

あとがき

三月の終りころまで、御岳山は雪に覆われる年もあり、一度に膝位まで積る事もあります。この時は一世帯一名の奉仕で、長い参道の除雪を行います。

春先は日陰には雪が残り、まだまだ寒い日が続きますが、眺望、特に夜景は素晴らしいものがあります。足元にご注意してご参拝ください。

金子千待先生には選句、選評を、齋藤慎一先生には調査、玉稿を、嶋崎迪夫様にはご寄稿を賜り、誠にありがとうございます。

平成十四年三月八日発行

(年二回発行・非売品)

編集 武蔵御嶽神社

Ⅷ(四六)(七) 八五〇

Ⅷ(四六)(七) 九七二

印刷 榊成和印刷

表紙写真 鈴木新吾